

# 第3回キャリア教育シンポジウムを開催して

杉田 彰久\*, 水口 秀範,  
高崎 敬雄, 酒井 良二, 佐藤 健夫

(受領日: 2012年4月27日)

高知工科大学 教育講師室  
〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

E-mail: \*sugita.akihisa@kochi-tech.ac.jp

要約: 高知工科大学では、2003年度から教育講師制度と新入生教育をスタートさせ、その後4年間を一気通貫するキャリア教育に発展させてきた。社会人基礎力が叫ばれる昨今、各団体で様々な取り組みが行われている。そこで2012年2月17日(金)、他大学、高等学校、企業から講師を招き、「キャリア教育の現状理解と今後どうあるべきか」を考える第3回キャリア教育シンポジウムを開催した。プログラムは、外部講師の事例紹介、本学の取り組み紹介、パネル討議の3部構成とし、学内外から合計約100名強の参加を得て成功裏に終わった。高校・他大学・企業での取り組み、パネル討議で浮かび上がった課題、および来場者からのご意見を今後の活動に反映させたいと考えている。

また、教育講師室として主催したことが我々のFDにも繋がった。

## 1. はじめに

シンポジウムの実施にあたり教育講師室では、①教育講師全員が1人1役を担う、②大学上層部の了承を得て大学全体のイベントとして位置づける、③高知・他大学・企業からも講師を招き公開形式で行うことの3点を申し合わせた。参加者数の目標は100名とし、様々なルートで周知PRに努めた結果、遠方からの参加者、県内の関係者、学生、学内参加者を合わせて目標に達した。プログラムは、外部講師の講演、高知工科大学の取り組み紹介、およびパネル討議の3部構成で約5時間になった。

シンポジウムの概要は、ダイジェスト版を大学のホームページに掲載し公開している。

### 1.1 準備段階

シンポジウムの開催は昨年8月末に立案し、4人の企画委員を中心に約半年間の準備期間を経て、本年2月中旬に実施した。最大の課題は、プログラムの充実と参加人数の確保で、教育講師全員が議論し知恵を出し合った。外部講師の招へいでは、本学への入学生が多い普通高校と工業高校の進路指導教員、他大学と企業は過去に繋がりがあった方をお願いした。事前に直接お会いして趣旨説明と了解を得た後、教育本部長決裁を得て学長名の講師派遣依頼状を送

表1.0 開催に向けた準備スケジュール

日程	内容
8/20	教育講師室パンフレットとシンポジウム開催の発案
9/20	パンフレット完成
10/12	シンポジウム企画委員選出
10/25	開催につき教育本部長承認
11/1	開催につき学長承諾
～	外部講師との摺り合せ、講師派遣依頼の決裁と依頼書の送付
2012/1月末	開催のPR活動、大学のHP掲載
～1月末	開催のPR活動、大学のHP掲載
～2/16	会場設営など開催の直前準備

付した。

学内では教育本部長、学長、副学長、入試センター、就職センター、教育センター、学生支援センターに説明しご理解を得た。学外では、高知県庁の生涯学習課、高知大学、県立大学、香美市役所、県内の高等学校、ハローワークなどに開催を案内すると共に、大学のホームページにも掲載して参加を呼び掛けた。また教育講師はそれぞれの個人ルートで参加を呼び掛けると共に、退職された教育講師OBにも案内した。

## 2. 講師とプログラム

第1部は、外部講師による講演である。

「企業が求める社員像」

パナソニック(株) 顧問 牧野 正志氏

「高等学校の進路指導キャリア教育」

高知工業高等学校 教諭 奥谷 浩章氏

高知小津高等学校 教諭 徳弘 智子氏

「各大学の取り組み」

これからの大学キャリア教育について

武蔵大学経済学部 講師 村杉 靖男氏

県立広島大学の取り組み

県立広島大学 教授 原田 淳氏

京都府立大学の取り組み

京都府立大学 特任准教授 辻田 祐純氏

第2部は、高知工科大学の取り組み

「スタディスキルズとキャリア教育体系」

教育講師室長 島 和生

「システム工学群のキャリア教育」

教育講師 水口 秀範

「マネジメント学部のキャリア教育」

教育講師 酒井 良二

「チャレンジポイント、ものづくり工房」

教育講師 高崎敬雄

「高知工科大学の就職支援」

就職支援部 部長 上田 達哉

「キャリア教育を受講して」

各学群から代表4名が発表した。

- ・知能機械システム工学科4年 新本 優
- ・環境理工学群3年 古川 裕美
- ・情報学群3年 相川 由樹
- ・マネジメント学部3年 岡田 七穂

第3部は、パネル討議で、「人が育つ大学教育」の今後の方向性を探った。

コーディネータ：河田耕一氏

(高知工科大学名誉教授)

パネラー：牧野正志氏、村杉靖男氏、原田淳氏、辻田祐純氏、奥谷浩章氏、徳弘智子氏、島和生氏

## 3. シンポジウム開催の趣旨

高知工科大学では、2003年度から教育講師制度を導入し、新入生向けの「スタディスキルズ」を正式授業として実施してきた。2004年度にはこれが文部科学省の\*「特色GP」として採択され、記念のシンポジウムを2005年2月に開催した。翌2006年には第2回目を実施し、今回が3回目となる。この間に大

学は、マネジメント学部の新設、公立大学法人化、工学部再編など大きく変貌進化した。キャリア教育においては、2008年度に4年間を一気通貫する「キャリア教育プログラム」を確立している。そこで、2008年度から3年を経過した節目を期に、他大学、高等学校、企業から講師をお招きし、「キャリア教育の現状」を相互に理解し、「人間力向上の視点から今後どうあるべきか」を考える研鑽の場としてシンポジウムを開催した。

\*特色GP：文部科学省が選定する「特色ある大学教育支援プログラム」のこと

## 4. 内容

開催の冒頭、主催者を代表して富澤教育本部長から、高知工科大学の3つの基本理念の1つが、「来るべき社会に活躍できる人材の育成」でこれに繋がるのが「キャリア教育」であるとの、趣旨説明があった。

### 4.1 企業側の講演

これからの製造業に求められる人材像として4つのことを求めたい。

- (1) T型思考のできる人で、①新しい価値を創造する力(コンセプトメイキング力)、②社会課題を意識する力(Social Mind)、③高い専門技術力が必要である。
- (2) 異質へ飛び込み融合できる人  
職場はグローバル化し、価値観・文化・言語が入り交じる。
- (3) 強烈な信念を持ち①成功するまでやる、②Stay hungry, Stay Foolish (Steve Jobs)。今や就社から就職への時代に入った。自らの夢・志の実現に向けてキャリアを磨く人。

### 4.2 高校側からの講演

高知工業では、約半数が進学で、全体の1割が高知工科大学に進学する。就職率は100%を維持し続けている。教育目標の3本柱は、

- ①進路目標を高く持ち達成できる人材の育成
- ②資格取得を目指し、知識、技術、専門性の高い人材の育成
- ③全国に発信できる「ものづくり」や研究活、全国に挑戦できる部活動の育成

小津高校では、殆どの生徒が上級学校に進学する進学校であり、就職指導ではなく3年間を通したキャリア学習を実施している。若鳩プランを設け、知の

総合化，進路観・勤労観の確立，情報活動能力，コミュニケーション能力，自己表現力の育成，課題解決能力の向上を図っている。

#### 4.3 他大学の講演から

キャリア教育は、「適応力」と「抵抗力」の重要性を教えることが大切である。

適応力とは，与えられた環境に適合する力で，社会人基礎力，基礎学力，専門知識などのこと。抵抗力とは，与えられた環境に対抗する力で，ストレス対処力，ワーク・ルール習得力，職場改善力などという。

社会の中で主体的なキャリア形成を実践する行動力のある人材の輩出が目標である。

Think Globally, Act Locallyを実践できる信頼感のある人材で，専門分野を自らのキャリア（職業人生）に活用できるバランスの取れた視野・知識・コミュニケーション能力を持った人材の輩出を目標としている。

学生を熱くし情報共有で鍛える

学生毎のポートフォリオを教員がネットで共有してきめ細かい支援。特徴は，①文字以外に，ビジュアル・サウンド，プレゼンの様子など豊富なコンテンツ。②自分だけでなく，教員・家族，友だちなどからもアクセスが可能である。

#### 4.4 高知工科大学の取り組み

π型人間を育てる

高知県では高校までの12年間に図4.1のようなキャリア教育が行われており，他県においても様々な取り組みがされている。

大学は，受け入れた新入生の殆どを社会に送り出す立場にあり，本学においては図4.2のような取り組みで社会人基礎力向上を図っている。

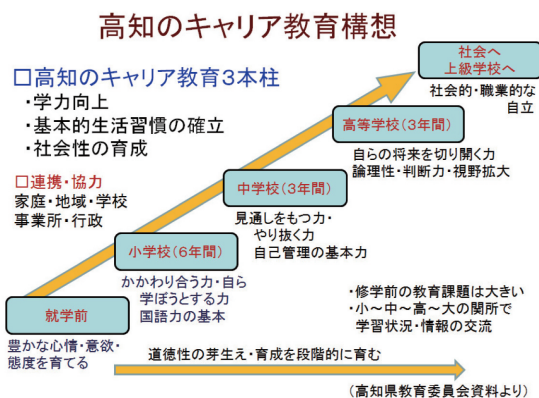


図4.1 高知県のキャリア教育構想

本学には，5つのキャリア教育科目と3つの補完プログラムがあり，いずれも教育講師が多くの役割を担っている。

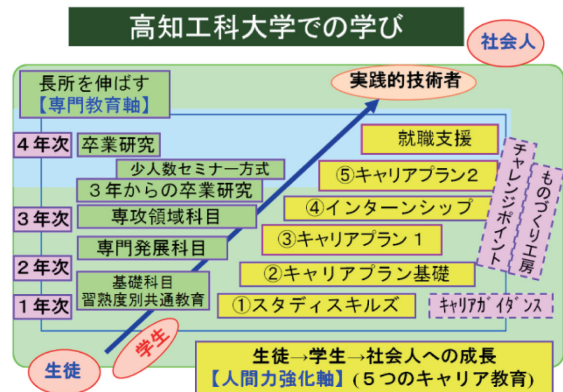


図4.2高知工科大学のキャリア教育

#### 育てる学生像について(2)

I型、T型 から更に π型(パイ型)人材へ！

- ・ものづくりで重要な技術の融合
- ・幅広い知識を基盤とした高い専門性、感性、教養
- ・T型に止まらずダブルメジャーを有する人材
- ・高い専門性と人間性(感性)を有する人材

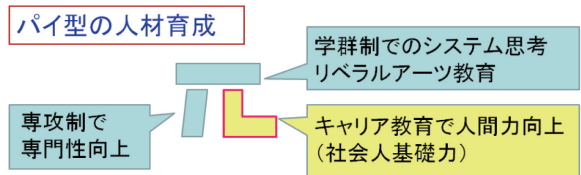


図4.3 高知工科大学が育てる学生像

本学ではトップ方針の下，育成するキャリア教育ではなく，学生自身が成長する環境整備に注力し，教員は学生の行動を駆り立てる仕掛けづくりを行っている。図4.4はその中で受けた賞で，社会人基礎力に対する評価の1つである。未だ道半ばであり更に努力したいと考えている。

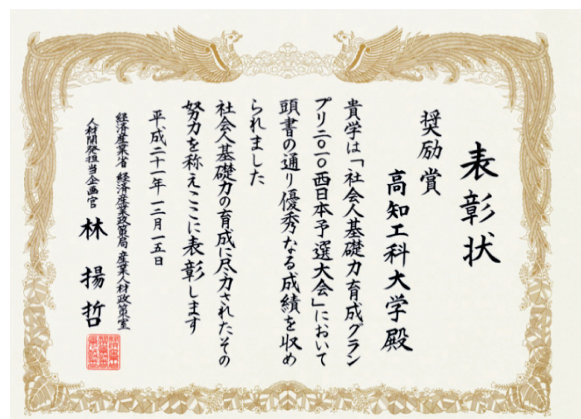


図4.4 社会人基礎力奨励賞

本学では、学生が自由にものづくりを体験できる、「ものづくり工房」を設置している。3DCADによるものづくり、パソコンや電子工作の自作、簡易ロボットづくりなどが行える。

本学独自の単位科目であるチャレンジポイントは、公序良俗さえわかまえば、どのような挑戦でも認めるもので、難易度に応じたポイントを与え、5ポイントで1単位に認定する。年間約40～50名が挑戦するが、更に挑戦者を増やしたいと考えている。

#### 4.5 パネル討議で明らかになったこと

座長から、「キャリア教育は学校単位で終わるものではない。幼保と小学校は「小1プロブレム」、小学校と中学校は「中1ギャップ」で連携が進んでいる。一方高校と大学間は入学試験、大学と企業は入社試験のみの繋がりに終わってはいないだろうか、これらの連携が「人が育つ教育」で重要ではないか」と課題提起があった。

#### キャリア教育上の高大間接続問題

高知県では小中間、中高間で生徒毎の進路情報を公開し共有している。これに対して高大間に於いては学生の進路情報が高校側にフィードバックされておらず、高校の進路指導に活かせていない。他大学においても教員個人の活動はあるにせよ、組織的な情報共有には至っておらず共通課題として認識した。

#### キャリア教育に関して専門科目教員とのギャップ問題

専門科目の教員は概して学生のキャリア教育について関心が低く、学生の職業観の低さの要因になっている。高知工科大学では、専門科目の教員・就職支援部の職員・教育講師からなる就職センターを置いて全学の取り組みを促進している。

#### 会場の学生から鋭い質問

親自身のマナーが低下し子供の躰けができないケースが増えているので、強制力が働くその親が勤める企業が教育機関を運営する案に対してパネラーの皆様はどう思われますか？

パネラーから、日本全体を変えるのは難しいが、やっている企業があることが紹介された。

#### 人が育つ大学教育とは

学生が育つには、学生自身が行うことと大学が準備することの両方があるが、未成熟な学生に比べ専門家を揃えた大学側により多くの責任があり、人が

育つ土壌づくりが大切であると考えている。職場は人生の道場と言われ、社員は職場で影響を受けながら徐々にその企業らしい社員になっていく。大学においても同じで、キャンパスライフという土壌は吸収力旺盛な学生に対して大きな影響を与える。

本学では、少人数教育に力を入れており、教員はわが子を育てるような気持ちで学生と接し、社会人基礎力の向上に効果が期待できるメニューづくりをしている。図4.2に示すもの以外で特徴的なものは、1年生の合宿オリエンテーション、アドバイザー制度、24時間オープン図書館、地元自治体と共催する祭り、5段4層の就職指導、などがあり、更に充実させていきたい。

## 5. おわりに

このシンポジウムの実施概要はホームページで公開している。掲載に際しては著作権問題もあり、予め外部講師など登場者の了解は必ず得る必要がある。パネル討議の様子は収録したビデオを基に文字起こし要約をした。この作業は大変労力を要するものだが、文字にしてこそ理解が深まるので省略できない。今回の体験を通じてノウハウが蓄積できたと考えている。

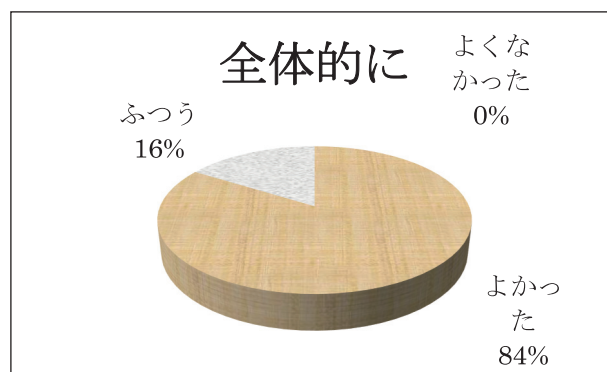
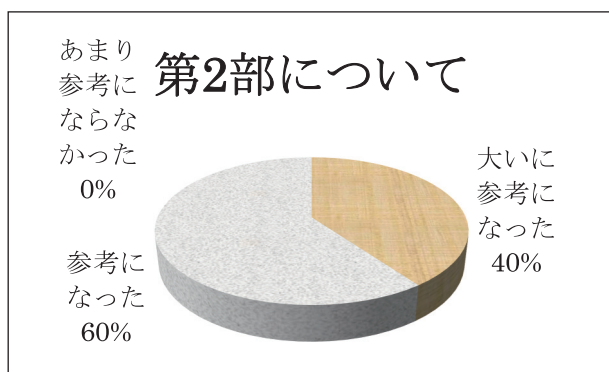
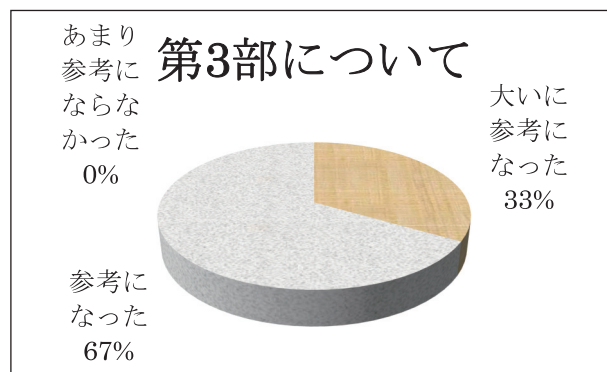
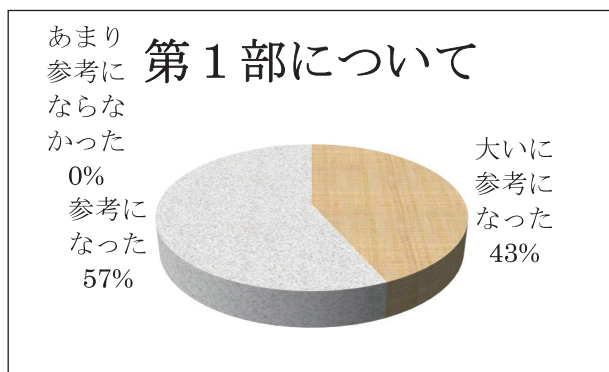
教育講師は各学部学群から要請される業務が各自各様で、室としてアクティブなFDプログラムは少なく個人の自己啓発に委ねられてきた。

今回主催したシンポジウムは、下記3点からFDとしても有益であったと考えている。

- ① イベント開催ノウハウと記録に残すノウハウの習得
- ② キャリア教育に関して高大間接続における課題の発見
- ③ 高校・他大学・企業での取り組み状況の習得

また、教育講師が各自の得意分野で役割を果たし、互いに啓発する副次的効果もあった。

来場者のアンケート集計結果は以下のとおりであった。



# Report on the 3rd Career Education Symposium

**Akihisa Sugita\***, **Hidenori Minakuchi**,  
**Yukio Takasaki**, **Ryoji Sakai**, **Takeo Sato**

(Received: April 27th, 2012)

Educational Lecturer's Office, Kochi University of Technology  
185 Miyanokuchi, Tosayamada, Kami city, Kochi 782-8502

E-mail: \*sugita.akihisa@kochi-tech.ac.jp

**Abstract:** Kochi University of Technology has started an educational lecturer system for new student education since 2003, and has developed it into the career education which will carry out the streamlined production system of four years. Each organization takes various measures these days when basic ability to work in society is more important.

Then, we invited the lecturers from other universities, high schools, and companies, and we held the 3rd career education symposium, which title was "how should present condition understanding of career education be?" on Fri., February 17, 2012. The program contents are the 3-part series, visiting lecturer's case introduction, measure introduction of this study, and of the panel discussion. About 100 persons were participated this symposium, and it finished with the success. I think that the measure in a university and a company besides high school, emerged in the panel discussion and that the opinion from a visitor would be reflected on our future activity. Moreover, this symposium was sponsored by an educational lecturer office, and it led to our FD.